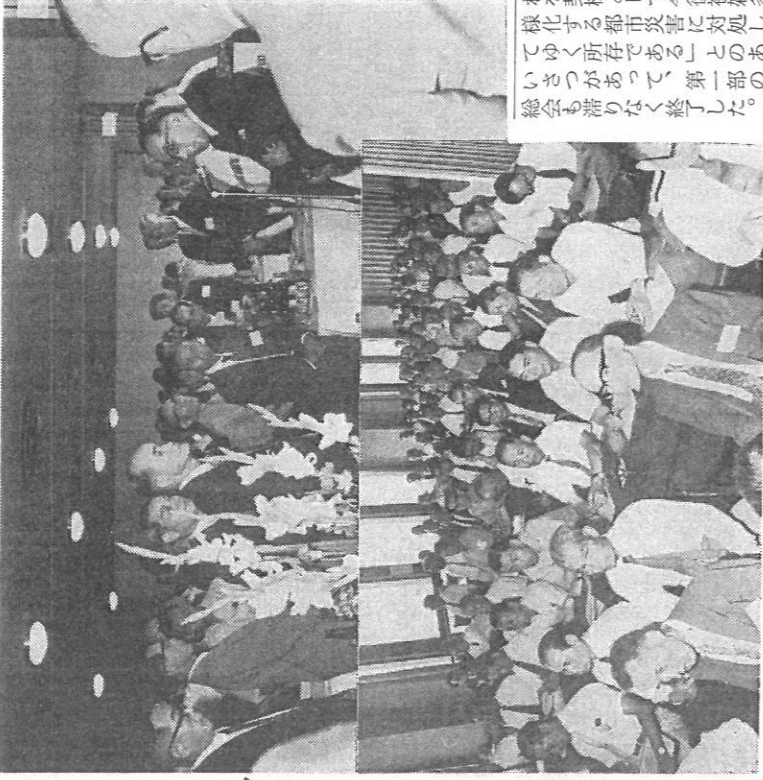


第7回大阪消防清風会総会

盛大に催される



恒例の第七回、大阪消防清風会総会が、七月九日(月)午後二時から、東区天満橋の大阪キャッスルホテルにおいて、大島市長の出席を戴き、来賓ならびに会員三四名の出席を得て盛大に行われた。

すみ渡った秋を思わず、恒例の第七回、大阪消防清風会総会が、七月九日(月)午後二時から、東区天満橋の大阪キャッスルホテルにおいて、大島市長の出席を戴き、来賓ならびに会員三四名の出席を得て盛大に行われた。

定刻の午後二時には来賓の鴻池大阪市連合防火協力会長、府下の各消防長、氏原消防局長以下各幹部並びに清風会役員が列席するなかで、青木常務理事の司会で会議が進められた。

総会に先立ち出席者全員が消防殉難者の霊に対し黙とうをささげ、始めに飯田会長から「会員各位が健康に留意され、今後とも本会の発展のためにご協力を賜りたい」とのあいさつが

十八年九月一日から施行する。以上のように会費の値上げについて報告があり、出席者の了承を得た。

会費の値上げについては、事務局で検討を重ね原案を作り、去る五月十九日に行われた理事会(出席者四十五名)にはかり協議した結果、万場一致で原案通り可決されたものである。

九月一日からの会費の値上げ分も含めての昭和四十八年度事業計画並びに歳入歳出予算(別表)について報告があり、次に会則の一部改正について審議された。

(改正案)
第二十一条第一項中の会費を
(一)定額会費 年 五〇〇円
(二)終身会費 三、〇〇〇円
附則
この会則改正は、昭和四十八年四月、市の機構改革により予防部が新設された二部制となり、名実共に内容を充実したので全職員がこれを契機として今後複雑多岐化する都市災害に対処してゆく所存であることの一のあいさつがあつて、第一部の総会も滞りなく終了した。

引続き第二部の懇談会には、中国親善視察から帰国されたままない大島市長の出席を戴き、永年消防職員として奉職された清風会員の労をねぎらう言葉を頂戴し、高松副会長の発言により、互いの健康と本会のますますの発展を願うとして、乾杯が行われ懇談会に入った。

懇談会では、市長が各テーブルを回り、会員と語り、杯をかたむけ、又一方では、消防の先鞭、後輩が、昔の消防は……、今の消防は……と、共に打ちとけ語り合い、時のたつのも忘れて、和気あいのうちに、定刻も近づき、大島市長が会員の拍手と万才に送られ退場された。終わりに、豊中市の井上消防長の万才三唱で総会も無事終了し、来年も元気で再会しようとの約束し、散会し帰路についた。

(写真説明)
上 懇談会であいさつされる大島市長(右二人目)市長あいさつに聞き入る会員の皆さん
下 総会で議事に聞き入る会員の皆さん

昭和47年度 歳入歳出決算書

歳入 712,603円
歳出 586,602円
歳差 126,001円 (翌年度へ繰越)

款	項目	金額	予算	差額	増減	予算に比し
1. 会費	1. 定額会費	344,100	333,000	11,100	△	11.100
	2. 終身会費	36,900	54,000	17,100	△	17.100
	3. 過年度会費	86,000	80,000	6,000	△	6.000
2. 雑入	1. 総会入金	217,000	190,000	27,000	△	27.000
	1. 補助金	54,750	54,900	150	△	150
	1. 雑入金	15,173	13,520	1,653	△	1.653
	1. 広告料収入	13,000	10,000	3,000	△	3.000
5. 繰越金	1. 繰越金	2,173	3,520	1,347	△	1.347
	1. 繰越金	198,580	198,580	0	△	0
合計		712,603	700,000	12,603	△	12.603

款	項目	金額	支出	差額	増減	予算に比し
1. 会議費	1. 会費	310,400	292,900	17,500	△	4,600
	2. 雑費	79,672	14,200	65,472	△	4,600
2. 事務費	1. 消耗品費	450	0	450	△	2,800
	2. 備品費	1,000	0	1,000	△	1,800
	3. 印刷製本費	13,750	13,570	180	△	1,000
3. 事業費	1. 通信費	123,430	122,000	1,430	△	19,528
	1. 連絡費	38,000	38,000	0	△	31,570
4. 積立金	1. 報印刷費	84,000	84,000	0	△	13,000
	2. 会費名簿印刷費	20,000	20,000	0	△	18,570
5. 予備金	1. 積立金	73,100	73,100	0	△	54,900
	1. 予備金	54,900	54,900	0	△	54,900
合計		586,602	586,602	0	△	113,398

別	用途	積立金	立金
昭和47年3月末現在高	429,523円	73,100円	54,900円
昭和47年度積立金	73,100円	7,563円	54,750円
昭和47年度繰出額	54,750円	455,436円	
差引48年3月末現在高			548.3.31

市長あいさつ

午後三時から六時大広間において行なわれた懇談会において、大島市長があいさつされた要旨は次のとおりであります。

今日は、第七回大阪消防清風会総会にお招きをいただき有難うございます。

今、こうして会員皆さんのお元気な姿に接し、なによりもうれしく思います。私は、常に消防職員には体力・気力の練習をつちかうよう訓示をして来ておりますが、中でも相撲道に徹することを希望し、私自身も消防局の相撲の顧問としておりますが、新しい消防学校には立派な相撲道場を建設したいと思っております。局長以下全職員が、私の方針通り一致協力して複雑多岐化する都市災害の守りに日夜努力して市民の付託に答えて来ておりますことはよろこびにたえません。

皆さんが、消防に永年奉職されたことに對し心から感謝申し上げます。

私は、最近中国から帰国したばかりですが上海で消防の三メートルの獅子自動車を見学し、大阪と比較し消防力において大阪が優るとします。

どうか皆さんも益々健康でお過ごし下さいますよう心からお祈りし、あいさついたします。

叙勲に輝く人々

昭和四十八年度の生存者叙勲で次の方々が授章されました。

ここに会員の皆様にお知らせしますとともに、心からお喜び申し上げます。

四月二十九日付

- 勲五等瑞宝章
 - 元京大津市消防長 大原明義(69才)
 - 京大津市松之浜町一丁目〇の三四
- 近況
 - 昭和三十八年五月京大津市助役に転任活躍されましたが、昭和四十二年助役退職後は健康勝れず現在自宅に於いて静養中であります。
 - 勲六等瑞宝章
 - 元大阪市消防監 宮崎信雄(61才)
 - 大阪市東成区中本三丁目〇の一〇

春の

叙勲を受けて

宮崎 信雄

昭和四十八年五月十日春の叙勲伝達式が日本消防協会ホールにおいて行なわれ勲六等瑞宝章を授章した。後天皇陛下の賜語をお受けするため皇居に参内、豊明殿において陛下のお姿を指呼の間に拝し、「永年社会をかみしめたい。七十年代はG・N・W経済に移って行くであろうと言われているが、今日の経営理念からして経済の見通しはつかなく、その曲り角に立ち現代は換算の時代であると言われている。時代の流れは社会を変えつつあり、この激動する社会において今後の余生をこの機会に新たに社会奉仕の道に歩み、一層精進して行きたい」と考えている。

近況
昭和四十二年六月に都島消防署長を最後に退職され、その後、藤竹中工務店神戸営業所に再就職され現在、元気に勤務されております。

昭和48年度歳入歳出予算書

- 1. 歳入金 770,000円
1. 歳出金 770,000円
1. 差引残高 0円

歳入の部

Table with columns: 款, 項, 目, 本年度予算額, 前年度予算額, 前年度との増減, (単位円)

歳出の部

Table with columns: 款, 項, 目, 本年度予算額, 前年度予算額, 前年度との増減, (単位円)

長生き

大阪防災管理株式会社
社長 赤井次郎
(元大阪消防局長)

目黒益軒先生(一六三〇〜一七〇四)は「人の身は一〇〇をもつて期とする。上寿は二〇〇才、中寿は八〇才、下寿は六〇なり。六〇以上は長生きなり。世の人は下寿をたもつ者少なく、五〇以下短命なる人多し、人生七〇古来稀なり」と要するに養生させずれば、人皆一〇〇才まで生きるといわれた。

また、小野三郎医学博士はその著書「二二五才の挑戦」の中に次のように述べ

「人間の体の細胞は普通四〇日とか、六〇日とかに入れかわるが、脳細胞は絶対に入れかわらない。だから脳細胞が生き続ける限界が人間の寿命である。

「水川情話」の中に勝海舟先生は人間の長寿の法は「思慮の転換」即ち、縛々たる余裕をもつて物事に執着せず、拘泥せず円転滑腕の妙境こそ長生きの秘訣と語られている。日本人の平均寿命が、昭和四十六年に待望の男七〇才、女七十五才を突破し、世界の長寿国の仲間入りをしたことは、この同慶の至りであります。男の場合平均寿命七〇才というのは、定年(五十五才)後十五年の余命があります。筆者の先輩のある実業家は、七十三才の誕生日祝宴の席において、私が「〇〇才の長命を祈ると乾杯したら、ただちに二二五才に訂正を申し入れ、あらたに長生きを念願するものであります。先輩諸兄のご多幸を祈ります。」と一言して

「歴史」のすさまじいエネルギーが、かき削った傷を癒やしてくれるように、冬目が厚く覆れた社会人として泣き動されている。この例を人物を数字の荒れた院をひいて、また、社会のための夢を残した事柄を影をおとす。真実してこそ生き甲斐のある人生といえる。

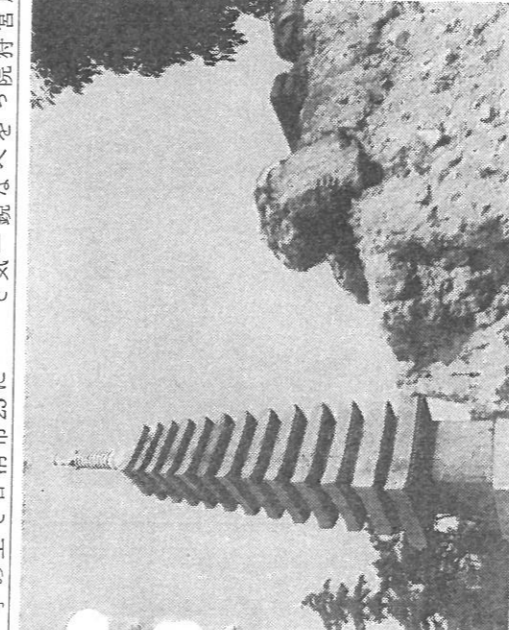
「夜軍」に成て、暗さは暗の徳を重ね、日々好日を過く、大將軍頭中將軍衛尉若し前職に誇りを持ち、神仏に感謝し、心身共に健やかになり、心身を大切に、あらゆることに長生きを念願するものであります。先輩諸兄のご多幸を祈ります。」と一言して

「歴史」の中に消えて行った宋の人の伊行末という僧父の事を想った。十数枚の巨石を積んだ「石の美」の香板な技術を語る前に、五十年のいのちを燃焼させたこの人達の暗く重い運命と闘った殺戮の姿をこそ語るべきであろう。熱い湯の下に建つ巨石の塔は、だから大地に積まれた一個の無機物ではなく、運命という重任を突き破って、永遠に高く飛翔しようとする或る巨大な意志の暗示として、私に迫ってくるのだ。初重石に若愚の勢に汗しつつ「美」を創り残して、貧しく埋もれ消えて行った異国の技術者達の真摯にして清冽の精神を映すのに、果してどの余白を残したといふのかいま、時を遡って私には、唯々、流汗叩頭するのみである。

般若寺くゆく

福島消防署長 中尾 浩

般若寺は、南北朝初期一瞬の閃光を再び放射する。笠置が六波羅車によって落城し(二三三二)捕えられた後醍醐天皇に心を残しつつこの寺に難を避けた第三王太皇宮を造って、ある薄明、喊声をあげて寄せる興福寺一乗院の僧院からのがれるため、宮は大般若經を納めた唐櫃につひまされ、焼けて黒くたれながら、なお久遠の慈愛をその豊饒にたたえて、私の前にある。重藤土人のもとで東大寺再建につくした伊行末のひたすらな情熱が陽炎をあける烈日の下で燃えてい



消防局幹部一覽表

昭和四十八年十一月一日現在

Table listing fire department officials: 局長 消防司監 氏原 岩雄, 総務部長 消防正監 堅田 輝正, 予防部長 消防正監 恩田 一則, 警防部長 消防正監 赤松 貞亮, 総務課長 消防監 田中 茂, 人事教養課長 消防監 中瀬 日出夫, 消防学校長 消防監 喜岡 政義, 総務部主幹 消防監 仲野 広治, 総務部主幹 司令長 榊野 喬吾, 総務部主幹 司令長 国貞 拳吾, 予防課長 消防監 米谷 重雄, 指導課長 消防監 中田 傳, 防災設備課長 消防監 巽 健治, 警備課長 消防監 松本 七郎, 警備計画課長 消防監 杉村 喜久男, 機械課長 司令長 矢ヶ部 俊高, 警防部主幹 司令長 大西 輝和, 警防部主幹 司令長 座波 清秀, 北消防署長 消防監 本田 武義, 都島消防署長 司令長 高橋 幹一, 福島消防署長 司令長 中尾 浩, 此花消防署長 司令長 佐藤 利生, 東消防署長 消防監 藤田 浅太郎, 西消防署長 消防監 中谷 秀雄, 港消防署長 司令長 本田 勝彦, 大正消防署長 司令長 吉川 幸一郎, 天王寺消防署長 司令長 中須賀 一成, 南消防署長 消防監 堀田 忠男, 西淀川消防署長 司令長 国本 篤弘, 東淀川消防署長 消防監 東 博人, 東成消防署長 司令長 高杉 宇三郎, 生野消防署長 消防監 中瀬 宣男, 旭消防署長 司令長 井上 雅美, 城東消防署長 消防監 森田 耕市, 阿倍野消防署長 司令長 林 勝美, 住吉消防署長 消防監 中尾 清一, 東住吉消防署長 消防監 山西 朝男, 西成消防署長 消防監 荒木 昭三, 水上消防署長 司令長 光崎 一夫

新会員紹介

(S48.10.31 現在) 敬称略

Table with columns: 支部名, 氏名, 現住所, 電話, 職, 業, 退職年月. Lists new members across various branches.

懐かしい顔、顔 思い出あれこれ

青木永造

もうかれこれ三十五年前の思い出が甦りてくる。懐かしい当時の思い出が甦りてくる。本年度の清風会総会で...

ご寄付 本会が益々発展するよう... かなしみ このたび次の方々が逝去されましたのでお知らせ...

人舌をかむかも知れぬと... 懐かしい顔、顔 思い出あれこれ

お願い 消防委員の募集につきま... 原稿募集 本紙「清風」にて投稿下さい...

短歌 書初め墨の香りを筆にして... 三木 務 (阿倍野区)

俳句 塔見えて石段長し落葉舞う... 江口 武雄 (住吉区)

川柳 赤字でも車事は毎度ありがらう... 江口 武雄 (住吉区)

